

SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.63



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p ピア活動を考える
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p さつき商品・イベント報告
- 7 p ネットワーク推進事業部
- 8 p 賛助会コーナー

ピア活動を考える

はらからの家福祉会 理事／総合施設長 中野悟

昨年度に本誌でお伝えいたしました通り、4月から前任の伊澤より総合施設長の任を引継ぎました中野と申します。引き続きよろしくお願いたしします。

さて、今号ではピア活動について考えてみたいと思います。

当法人のピア活動と言えば精神障害者地域移行促進事業（東京都より受託、以下都事業）におけるLP（ライフパートナー）活動になります。

この事業の前身となる精神障害者退院促進支援事業を受託した当初から、ピアサポーターの方々には有償ボランティアという形で事業にかかわっていただきました。ピアサポーターさんはそれぞれ入院経験を持ち現在は地域で暮らされています。発症から入院までの経過や、入院から退院、現在の暮らしの変遷など様々な体験を持っています。それらの経験を入院患者さんや病院の職員さんには院内の退院準備プログラム等で、地域の支援機関、行政の職員さんには研修などの場でお伝えいただきました。自分自身も退院支援にかかわり入院患者さんとも話をさせていたいただくことがありました。その時に感じたのは入院患者さんの表情や姿勢でした。同じような話であったとしてもピアサポーターの方々が話をするのと自分が話をするのでは明らかに前者の方が興味

を持って聞いていただいている感じが感じられました。同じような立場だからこそその共感性や経験的専門性、そういったものが患者さんに与える影響は大きく、それは病院の職員さんにも波及していきました。患者さんの退院への思いを強くし、病院さんの押し出す力も増し、その結果として退院に至った時の全員の笑顔は忘れられませんでした。

と、ここまで当法人のピア活動（LP活動）について書いてきましたが、残念なことに活動の背景になっていった都事業が今年度は不選定となつてしまい受託ができませんでした。この数年はコロナ禍で主な活動となつていた病院訪問ができずにいましたが、それでも病院さんとの関係性は続いており活動の再開を目指しておりました。

オンラインでの活動も少しずつ見えてきていた中での不選定は大きな衝撃でした。事業の受託ができないということは職員の動きも制限されまじし、何よりピアサポーターの方々に払う活動費の原資もないということになります。現状は昨年度末に唯一オンラインでの活動が始められた病院さんとのかわりを持たせていただいております。この活動をモデルとし他の病院さんとのかわりを広げていくことが当面の目標の1つかと思えます。

コロナ禍と言われ始めて3年目になります。感染対策をしながらの活動にも慣れてきていくところはありますが、第〇波が進んでいく度に感染者の数は増え続けています。これからも最大限の感染対策を続け、最大限の支援を行える体制づくりを心がけていきます。



令和3年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

地域生活支援部部長 毛塚和英

年間利用者状況	① 対応種別 訪問 284件 ケースカンファレンス 98件 来所 599件 関係機関連絡 1,689件 同行 74件 電話 4,431件 メール 0件 その他 44件 ② 来所利用者数 2,838名（＊平均来所者数 10.6名 / 日） ③ プログラム 参加者数 96名（開催数 51回） ④ 宅配弁当手配 371件 ⑤ ボランティア（実人数5名）プログラム回数 0回 傾聴ボランティア 0回 ⑥ その他 外部会議 220回 出向・出講 34回 家族会支援 2回 地域イベント（バザー参加） 0回
利用者の属性等	1. 利用者総数 258名 地活登録利用メンバー 94名 男性 48名 女性 46名 新規登録 15名 更新 79名 平均年齢 50.32歳 2. 指定特定相談支援事業利用者 110名（3/31現在） 3. 指定一般相談支援事業利用者 1名（3/31現在） 4. 障害者地域移行促進事業 担当圏域（北多摩西部圏域、西多摩圏域） 行政・事業者支援、研修開催、LP（ピアサポーター）活動 など
職員体制	常勤：伊澤(管理者) 中野(所長) 角谷 毛塚 山下 横堀 石井 非常勤：山内 保坂
開館状況	開館日数 267日（一部電話相談のみの開所）

（令和3年度振り返り）

昨年度の大きな出来事として、東京都精神障害者地域移行促進事業の不選定となったことです。ピアサポーターとの病院訪問については、コロナ禍の影響で行えませんでした。北多摩西部圏域内の全市において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係る協議会へ協力をすることが出来ました。モデル事業から、東京都の地域移行を担ってきた立場として、痛みを負うこととなりました。

交流室の状況については引き続き、短時間での利用のお願いや多くのプログラムを中止し、メンバーさんには負担をしいてしまっていました。

計画相談については、コンスタントに新規希望の相談があり、事業所内での調整に悩ましさを覚える年度となりました。

コロナ禍になり2年が経ち、感染症対策にご協力を頂いていることを改めて感謝申し上げます。

（令和4年度活動展開にあたり）

5月からではありませんが、新体制となり、少しずつ変化を起こしていこうと模索しております。

プログラムの緩和については、実はメンバーさんが慎重なので助かっておりますが、コロナ禍でコミュニケーションの機会が減る中、「表現をする場」も減っているのでは、と懸念し、感染者数の増減を見合いながら、秋頃に、プラッツメンバーさんを対象とした、『小さな文化祭』を企画しています。

都事業については前述の通りですが、ピアサポーター活用アドバイザー事業のみは引き続きの受託が出来ている為、ピアサポーターとの活動がコロナ禍でも盛んになるよう、オンライン活用のプログラムを検討していけたら、と考えております。

第7波到来のこの時期に展望を語るのには軽率ではあります。しかし、生活を支援する事業所の気概を失わず、様々な提案を行っていこうと思えます。

令和3年度 ピア国分寺

グループホーム・ショートステイ

居住支援部部长 中野悟

グループホーム（4ユニット、定員26名）の年度内入退去は、入居者8名、退去者6名でした。退去者のうちアパートでの単身生活へと移行された方もいれば、ここでの通過型グループホームとしての取り組みを経て別の滞在型グループホームで生活をスタートした方もいました。新規入居者としては、これまで精神科病院を退院してそのまま入居する方が多かったです。例えばご家族と同居していたが単身生活を目指して入居するといったような地域からの利用も増えてきている傾向にあります。また、入居についての相談・見学対応を52名の方に行いました。やはりこちらもご家族と同居中の方からのご相談が多く、退院して地域へというニーズと合わせて、地域でご家族との同居から単身生活へというニーズも高まっている印象を受けます。

また昨年度は、入居中の方たちの状況として、入院治療をされる方が多くいらっしゃいました。精神的な病状悪化だけでなく身体的な不調が理由の場合も含めてではありますが、医療機関との連携をよりいっそう大切にしたいと思うのと同時に、コロナ禍での地域生活における取り組みという難しい状況の中で皆さんがチャレンジしていることをあらためて感じました。

ピア国分寺が東京都から受託している、退院促進を目的として入院患者を主な対象とした「グループホーム活用型ショートステイ事業」については、延べ151日（前年度125日）の利用がありました。前年度から利用者や利用日数が増加したということもそうですが、本来の対象者である入院中の方の利用が前年度の3倍近くにのびりました。病院における新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いてはいますが、入院患者さん達が外出禁止となる状況は減少傾向にあり、少しずつですが退院への取り組みが動き出しているのを感じます。

〈令和4年度は…〉

引き続き、新型コロナウイルスへの対応が大きな課題のひとつとなります。入居者やショートステイ利用者の活動も大切にしながら感染予防に努め、生活環境における身近な支援者として、リスクや制限のある中でどのように支援の質を保つかを考えたいと思います。できなくなつた支援や関わりも多くありますが、いっか元の活動に戻していくだけを考えるのではなく、こういった状況だからこそ見えてきた新しい関わり方や考え方を持って進んでいきたいと思えます。

また今年度から、居住支援部部长を作道から中野（総合施設長との兼務）に引き継ぎました。世話人も、水木が通所訓練部に異動となり、通所訓練部から中山が異動してきました。また少し顔ぶれの変つた居住支援部を、引き続きどうぞよろしく願います。



さつき共同作業所 令和3年度事業報告

就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

通所訓練部部长 作道康介

令和3年度においても、感染防止対策に努めながら、いかに利用者のニーズに沿ったサービスが提供できるか、安心安全な場や抛りどころで在り続けられるかということが大きな課題でした。

作業や利用の制限、利用時間の短縮、プログラムの中止など、どうしても活動の縮小を余儀なくされている状況が続いており、思うように活動できないもどかしさや不安を抱えている方も少なくないのではと感じています。

ですがそういった中で、市内販売イベントへの参加や、オンラインを活用したプログラム等の実施など、少しずつではありますが対策や工夫をしながら再開できていることも増えてきています。印象的だったのは、前年度はやれなかった忘年会を飲食なしの形で実施し、本当にたくさんの方が参加してくれたことです。感染防止として急きよ2部屋に分かれ、オンラインでつながっての開催となるほどでした。利用者の皆さんがさつき共同作業所のことをとても大切に考えてくれていることをあらためて感じ、こういった状況であつても進み続けることの必要性を強く感じました。

また気づきとして、このコロナ禍だからこそ見えたこともありました。できなくなっている支援や関わりも多くありますが、以前の活動に戻していくことだけにとらわれず、今だからこそ出来ることにも目を向けながら今後も進んでいきたいと考えております。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

🌸 インスタグラムはじめました 🍉

今年度より、さつきのハンドメイドを紹介するInstagramを開設しました。完成した商品はもちろんの事、普段なかなかお見せすることのできないやすり掛けや絵付けなど、製作の過程も配信しています。イベントの告知等もしていますので、お時間ある際には是非ご覧になって頂けると嬉しいです。



こちらの QR コードを読み取ると、さつきのInstagramをご覧になって頂けます。



イベント報告

○ミーツ販売会（7/2・7/3）

ミーツ国分寺にて国分寺障害者施設お仕事ネットワーク主催の販売会に2日間出店し、沢山の方々にさつきの商品を見て頂くことができました。メンバーさんも当日販売スタッフとして店頭立ち、お客さんの生の反応を見聞きして下さり、普段の作業へも良いフィードバックをもたらしてくれています。



○セレオ国分寺ワークショップ
・販売（7/30）

昨年の障害者週間の際に行ったハンドメイドのワークショップを、再びセレオ国分寺さんで開催させて頂きました。当日に向けてメンバーさんとミーティングを重ね、人と協働する難しさも楽しさも皆で経験し、学びの多いイベントとなりました。予約枠以外に、当日参加のお客さんも多く来て下さり、メンバー・職員・お客さん全員が怪我無く無事に企画を終えることができました。チラシの掲示などご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



世界にひとつだけの
陶芸作品
天につくろう思い出さ
2022年7月30日(土) 11:10-15:40
9階インドアガーデン

作業所で制作した様々な色や形の陶器の小物に、お絵描きしたり、小さいパーツを飾りつけて、世界に一つだけのオブジェやアクセサリをつくりましょう！

お弁当 500円 (税込)
お飲み物 1,000円 (税込)

お申し込み先
セレオ国分寺 027-252-1111
セレオ国分寺 027-252-1111
セレオ国分寺 027-252-1111

CELEO

続々と新しい商品が生まれています。

さつき新商品紹介

ハロウィン置物



国分寺ゆかりの商品



キッチンシリーズ



ネットワーク推進事業部 事業報告

ネットワーク推進事業部部長 岡本和子

ネットワーク推進事業部は、福祉サービスの転換期に立ち上がりました。精神の病気や障害を、医療や福祉でばらばらに考えず、連携という考えを持つ事、狭間にあるものに力を注ぐ事といった事業でした。そして福祉の目線からクリニックを作ろうとしましたが、社会福祉法人立では認められず、現理事長である藤田が2010年に「医療法人社団 国分寺すずかけ心療クリニック」（略称すずかけ）を開業し、ネットワーク推進事業の大きな仕事の1つとして出向することになりました。

【令和3年度 事業報告】

①国分寺すずかけ心療クリニックについて

多職種チームで、種々様々な機関の力を借り、外来・訪問診療・訪問看護・デイケア・外来相談等を行っていました。

令和3年度も2回の緊急事態宣言があり、デイ・ナイトケアでは大人数で集まることを避けました。皆で試行錯誤し、アクリル板ありの黙食、マスクなしで会話ほしない、料理や交通機関を使った外出を行わない等、できないこともありましたが。一方で、動画を見て、全国の七夕や全世界のクリスマスを楽しむ、生活の知恵を学ぶ、院長企画「ハワイ村オン

ラインツアー」など、オンラインを駆使した新しいプログラムが生まれました。

講師もメンバーもスタッフも、当たり前のようにオンラインや電話を使い、日常的に繋がりが続ける努力をしています。

②のちたまをきっかけに、数件ですが(大)東京学芸大学の福井氏とオープンダイアログを始め、きちんと話を聴く大切さやその効果を感じる機会を得ることができました。

②地域生活支援体制整備推進を目的とした「地域ネットワーク多摩（通称ちたま）」（国分寺を含む近隣の市の福祉・医療・家族等の連携）について

ちたまもオンラインで定期的に開催しました。増川ねてる氏を招いて、改めて「リカバリー」を皆で勉強しました。

③国分寺あゆみ会への協力と協働について

提出物やニュース、家族相談会等、ご一緒にさせてもらっています。講演会としては、藤田を呼んで頂き、ご家族の健康を考える勉強会が開催されました。その時は「なのかな会」の方にもご参加頂き、大盛況となったとのことでした。

④リカバリー支援とピアとの協働

○治療を受ける患者さんの希望とリカバリーの実現を目指すSDM (Shared decision making: 共同意思決定) 支援システム「SHARE」は、デイケア、訪問看護の中でも希望者に利用されています。

○元気回復行動プラン「WRAP」もデイケアや訪問看護等、日常的に行われています。

○「精神科医療機関におけるピアサポートの現状と活用に関する調査」ワークショップグループにピアスタッフと参加させてもらい、医療機関におけるピアやピアをめぐる環境について考える機会ができました。

⑤（社福）棕櫚亭協会との連携

すずかけデイケアの目標は、必ずしも就労とは考えていません。仲間がいて、環境を整え、何をしたいか安心して紆余曲折考える場を作ろうとするスタッフがいる、皆で色々な感じ方・考え方を生み出すプログラムや場があることが大事だと思っています。一方で、就労を目標とするメンバーがいた時に、就労に関してできるだけ多く新しい情報に接し、サポートしてくれる人がいるようにと考えています。

2017年度から、棕櫚亭の方々に、デイケアの中での就労支援プログラム「出前講座」を担当して頂いています。それ以外にも、困ったときにす

ぐ相談に乗って頂いたり、職業準備アセスメントをして頂いたりしています。

精神障害者就労定着連携促進事業等に参加させて頂き、「希望の実現と自己理解、より良い情報共有のため」の「マイノート」の作成と普及に関わらせて頂いています。

〈令和4年度の抱負〉

コロナだけでなく、異常気象や戦争等、皆同じ時代に生き、一緒に考え乗り越えなければならぬ、ピアの、同胞の時代を感じます。

住まい、居場所、行き場所、相談、治療、どれに対しても、使う方が主体となるよう、サポートする側がそれぞれの専門性を使う方が使えるように出し、一緒にあれやこれやと考えていくことが大事だと感じます。

精神科医療のサポート「SHARE」、当然の態度の実践でもある「オープンダイアログ」、元気になるために仲間同士で行い自身を見つめ直す「WRAP」、就労サービスで考えた「マイノート」、どれもが使う方が主体となるよう、安心安全を目指しているものだと思っています。

ネットワーク推進は、多くの力をお借りし、「ニードのトリアージ」（熊谷晋一郎氏）を大事にし、色々な方法・色々な場で、実践できるようにしていけたらと思っております。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

はらからの家福社会賛助会コーナー

<令和3年12月から令和4年3月の間に会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

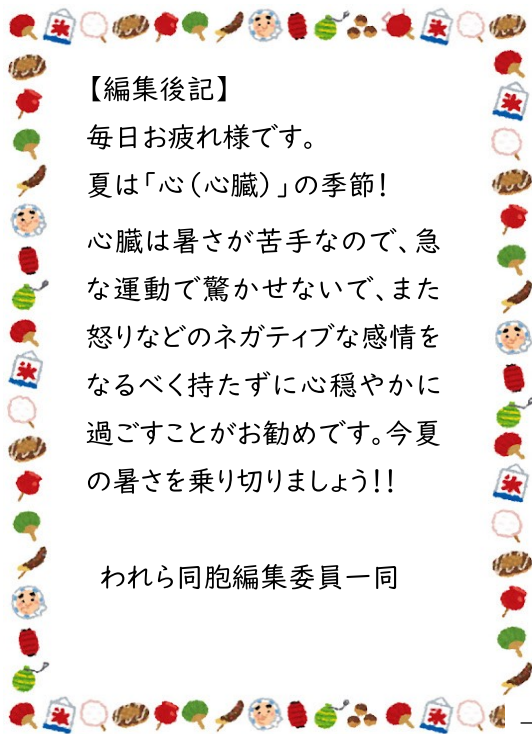
高見 法孝 服部 道枝 山岸 琴美 上田 恵美子 須長 三郎 原田 敬子 藤沢 歩
加藤 初江 松本 紀久代 竹内 幸子 井上 洋子 佐藤 佳子 佐藤 久夫 藤田 綾
真下 加代子 藤野 利太郎 中田 有智子 小林 輝雄 服部 道枝 にしの木クリニック
東京学芸大学 福井研究室 武蔵野はらっぱ祭り実行委員会 匿名4名

令和3年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位:円

支 出		収 入	
役 務 費	5,170	賛助会費	392,000
郵便手数料	12,932	(98名)	
法人寄付金	400,000		
当期繰越金	4,749	前期繰越金	30,851
合計	422,851	合計	422,851

会員の皆様、本当にありがとうございます。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、令和4年度賛助会費 何口(1口2千円)でも結構です。お振込みいただけると幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120